

# 古場地区（宇城市）

## 地名は古場でも先進地 ～頑張ろうキラリ輝くかくれ里 古場～

キーワード

地域ビジョン

特産品づくり

果樹



ビジョン策定年度：令和元年度 目標年度：令和5年度

# 1. 課題と将来像・ビジョンの内容

## 地区の「課題と将来像」

### 【地区の課題】

- ・担い手の高齢化
- ・田畑一枚の面積が狭い
- ・園地整備不足
- ・農道狭い、整備不足
- ・農業用水の不足



### 【地区の目指す姿】 = ビジョン

- (1) 地域の特産品を新たに導入し、販売するよう努める
- (2) 圃場整備の推進により、手つかずの平坦地を耕作する
- (3) 共同機械を購入することにより、労働力不足を補う。
- (4) イノシシ被害を防ぐため、集落で対策を行う



### 【成果目標】

- ・中山間地域直接支払交付金事業で対象としている農地の維持（田60a、樹園地31ha）。
- ・農業機械の導入を行い、担い手の労働力の省力化を図る（労働力の5%程度減）。
- ・地区内で栽培されていない作物を10aを目標として作付けする。

## ビジョンの内容

### (1) 地域の特産品を新たに導入し、販売するよう努める

- ① 地域であまり栽培されていない作物を導入し、古場地区の新たな特産品として販売を目指す。
- ② 学校給食への出荷や作物の品質向上を目指す。

### (2) 圃場整備の推進により、手つかずの平坦地を耕作する

- ① 農道や用水施設の整備・更新を行い、将来に向けた環境を整える。

### (3) 共同機械を購入することにより、労働力不足を補う

- ① 最新機械導入を行うため、メーカー等への視察研修を行う。

### (4) イノシシ被害を防ぐため、集落で対策を行う

- ① イノシシ対策を行うため、集落との勉強会を実施する。

## 整備・導入内容

令和2年度	動力噴霧器、動力運搬車、バックホウのアタッチメント（フォーク）
令和3年度	アボカド苗、農道舗装、電動剪定はさみ、発電機

## 2. 古場地区の現状

### 【農業者に関する状況】

・総戸数	32戸	住民台帳
・総人口	77人	住民台帳
・農家戸数	17戸	農家台帳
・農業者数	40人	農家台帳
・担い手数	17人	
・65歳以上の就農者数	11人	農家台帳

### 【農地に関する状況】

#### (1) 面積区分

・水田	3.9ha
・畑（樹園地除く）	0ha
・畑（樹園地）	44.6ha

#### (2) 筆数

・水田	58筆
・畑（樹園地）	380筆

#### (3) 作付区分

・水田	水稻
・畑（樹園地）	温州みかん、中晩柑

#### (4) 耕作放棄地

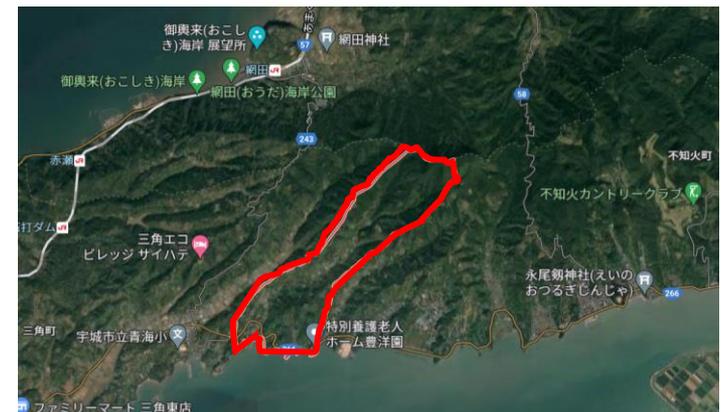
あり

### 【基盤整備に関する状況】

(1) 耕作道路	幅員が2.0m未満
(2) 排水	土水路
(3) 用水	井戸ボーリングによる取水

### ■ 地区の現状

- ・地区全体で高齢化が進んでいるものの、**意欲的な担い手・後継者**が多い。
- ・地区全体が南北に長く、園地によって気温差がある。
- ・園地整備が遅れている。**農道が狭く**、整備も不足している。
- ・農業用水が不足気味。
- ・数年前からイノシシによる農作物被害が増え対策が急がれる。



©Google Map

## (1) ビジョン策定に至ったきっかけ

### 「地域ビジョン」策定の経験・実績を活かす

古場地区はモデル地区農業ビジョンに先立つ「地域（集落）ビジョン」の策定を進めていた。「地域ビジョン」は各住民自治組織を中心に、将来にわたり安心して心豊かな暮らしを続けていくために、地域の現状を把握してみんなで将来を考える取り組み。具体的には「農道の補修」と鳥獣被害対策としての「えづけストップ！」を集落あげて取り組むこととしていたため、モデル地区農業ビジョン**策定に向けた「土台」が築かれていた**。このため「地域ビジョン」をもとにスムーズにモデル地区農業ビジョンの策定を行うことができた。

#### 【メンバー】

- ・区長を中心に果樹、水稻、野菜の栽培に取り組む幅広い世代の農業担い手。宇城市・県宇城振興局の担当者も農業ビジョン策定への支援を行った。

#### 【手法】

- ・地域ビジョン策定で見てきた地区の現状・課題に地域住民と担い手のニーズを加えて検討、作成していった。

地区の将来ビジョン		平成30年8月3日
区分	具体的な項目	取り組み時期(予定)
		今すぐ 5年以内 5-10年
農業の環境作り	農地の仕立整備(農道・水路)	○
	ハウス施設の田舎化(柚子樹園作付)	○
	農地専横	○
生活	雇用対策(高齢者の確保、高齢者の確保化)	○
	道路関係(アスファルト舗装、障害対策(2020年度))	○
	高齢者まわりの作り、若者の働き方作り	○
地域振興	観光客の誘致	○
	歴史・文化の観光誘致	○
	歴史・文化の観光誘致	○
	子育て支援、高齢者の確保、海外旅行支援	○

地域ビジョンで決められた古場地区の「将来ビジョン」

## (2) ビジョン策定の流れ

### 現状と課題を検証

イノシシ被害対策としての「えづけストップ！」から見えた課題から農業ビジョン策定へと進んだ

### 地域ビジョンへの肉づけ

地域ビジョンでの経験を活かし、さらに議論を深めながら農業ビジョンへと肉づけしていった

### 基本的な考え方の形成

なるべく多くの人たちを巻き込むことで、地域の多様なニーズを把握し、地域ぐるみの事業とした

### 決定後に地域全体への合意形成

中山間地域直接支払事業に係るメンバーでビジョン決定、それを地域全体の合意へとつなげていった

## ■ビジョン検討の流れ

回	実施日	話し合いの具体的内容	参加人数
1	令和 2.1.29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ビジョンをベースに新たなビジョン策定について検討</li> <li>⇒現在の課題の再確認</li> <li>・モデル地区農業ビジョンの検討</li> <li>⇒事業目的・内容の共有・ビジョン内容の検討</li> </ul>	18人
2	令和 2.2.13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所得向上に向けた取り組みの検討</li> <li>⇒取り組むべきことの課題と項目の整理</li> </ul>	15人
3	令和 2.2.27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スローガン設定について</li> <li>⇒内容の確認とビジョン策定に相応しいスローガンの検討</li> </ul>	14人
4	令和 2.3.12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業ビジョンの最終検討と決定</li> <li>⇒ビジョンへの合意形成</li> </ul>	16人

### (4) ターニングポイント となった出来事

**地域ビジョン** をベースにしたので、やるべきことがみえていた

地域ビジョン策定や中山間地等直接支払事業の集落協定など、農業の担い手が集まる機会が多く、そこで多くの意見や課題が話し合われた。その結果、「なにをすべきか」が、**ビジョン策定スタート時点である程度見えていた。**

すでにある程度かたちがあり、地域の人たちの合意が形成されていたことが、ビジョン策定に前向きとなった大きな理由だった。



### (5) 重点ポイント 若手農業者の意欲にこたえる スピード感ある決定

モデル地区になることの**メリットを前向きにとらえ、意欲的な若手経営者の要望にこたえ、集中的に予算を使う**ことで地区全体の活性化につなげる。何事も「チャレンジすること」が大事なので、**スピード感と目的意識を持って進める**ことで効果が目にみえてくる。

## ビジョン（1）特産品を新たに導入し、販売できるように努める

## ①新規作物・高い単価作物の導入。

アボカドの新規導入で **特産品づくり** を目指す

アボカドの栽培に新たに取り組むことによって、**柑橘類・ミニトマト・アボカドの里**として古場地区を全国に**アピール**していく。

令和3年度には、**アボカドの苗5品種60本**を試験的に導入。栽培の第一歩として、地区内の3戸の柑橘栽培農家がハウスと露地に分けて栽培を開始。古場地区に適した品種を調べている。

アボカドは中央アメリカ原産クスノキ科の植物。独特の食感があり、「森のバター」と呼ばれるほど栄養価が高い。**今注目の果物**として一般のスーパー等の店頭でも販売されている。

宇城市内では戸馳地区でも高級果実として栽培が始まっており、果実は**高価格で取引**されている。古場地区でも有望な高単価作物として着目した。果実が出荷できるのは3年後だが、その間に栽培技術の確立を目指す。



新たに導入したアボカドの苗木（上）とハウス内への定植状況（左）

## ビジョン（1）特産品を新たに導入し、販売できるように努める

### ①新規作物・高い単価作物の導入。

#### 耕作放棄地の解消にも

アボカド栽培については、**露地栽培とハウス栽培**の2つの方法を検証し、最適な栽培方法と品種を決める。

**3年後には収穫**が可能となるため、高単価な作物として本格導入が可能かを判断する。

アボカドの栽培が露地でもうまいけば、古場地区の耕作放棄地の解消にもつながると期待している。柑橘類に比べ栽培の手間が少なく、労力的にも高齢者向きの果樹として期待している。



#### 新品種の導入を積極的に

今後の有望作物として**紅系のデコポン**が注目されており、希望があれば紅系デコポンに限らず、他の新品種の導入も検討していく。

### ②学校等と連携し、作物の品質向上を目指す。

栽培されている**温州みかん**はヒノアカリ、トヨフク、ヒノアケボノ、オキツ、ヒノアスカ、ヒノサヤカ、タグチ、ナンカン、オザキ、アオシマ、シラカワ、農六号。その他**晩柑類**にはシラヌイ、ヒノユタカ、パール柑、河内晩柑、晩白柚、ブラッドオレンジ、グレープフルーツ、ゆず、レモンなどがある。

柑橘類についてはコロナ禍の影響は比較的少なかったが、さらに品質向上に取り組み市場での評価を高めていく。

**ミニトマト栽培**も盛んで、大玉トマトに比べて反当たりの収益性が高く、ハウス暖房での燃料費も抑えることができることとされている。出荷先は業務用のほか学校給食用にも多用されるため、**品質向上によって需要の確保**を図る。

## ビジョン（２）ほ場整備の推進により手つかずの平坦地を耕作する

### ①耕作放棄地を基盤整備し、利用可能な農地へ転換。

#### 基盤整備後に農地の活用法を検討

地形的に温度が低い「寒だまり」の農地（みかん、稲作）が、耕作放棄されている。令和5年度から、これらの耕作放棄地の本格的な基盤整備に取り掛かる予定で、基盤整備完了後には、栽培に適した作物の導入を検討する。

### ②農道や用水施設を整備・更新を行い、将来に向けた環境を整える。

#### 灌漑施設や農業用機械の倉庫などへの活用も検討

基盤整備によって農道や用水施設の整備・更新も行い、作物栽培だけでなく、希望があれば灌漑施設や農業機械の倉庫などとして用地を活用することも将来の検討課題としている。



農道の整備も地域の共同作業で行っている

## ビジョン（3）共同機械を購入することにより、労働力不足を補う

### ①担い手の省力化を図る。

#### 令和2年度から共同機械購入開始

集落の維持には、人力だけでは限界がある。令和2年度に土砂などを運搬できる**動力運搬車を導入**した。農業施設だけでなく農道の維持管理など集落全般に係る作業に活用している。

そのほか令和2年度には、農薬散布用の**動力噴霧器、バックホウのアタッチメント**（フォーク）を購入し、**農業の担い手の労力削減に結びつけている**。

令和3年度は、事業費でアボカド苗木の導入、農道舗装とともに共同機械として**電動ハサミ、発電機**を導入した。

電動ハサミは柑橘類の剪定と収穫に活用。従来、手作業で行っていたが、かなりの作業量となり手首・指の腱鞘炎を誘発する可能性があるが、電動はさみの導入で負担が軽減されている。

さらに令和4年度には小型のユンボ導入も計画にあがっている。

このほか、**ミニトマトハウスのファン設置についても課題として検討**していく。



本事業で導入された動力運搬車

### ②機械導入を行うためメーカー等への視察研修も行う。

電動ハサミの導入など、栽培管理に効果的な最新式機械についても、情報収集や視察などを通じて、常にアンテナを張っておく。また、導入した共同機械については、ビジョン構成員の共同管理として、不公平感のないように運用していく。

## ビジョン（4）イノシシ被害を防ぐため、集落で対策を行う

### ①集落ぐるみの勉強会や箱罠設置を行う。

#### 別事業で箱罠、電柵、メッシュ柵設置に取り組む

集落全体で話し合い「えづけSTOP!」を実施した経験を活かして、**イノシシ捕獲用の箱罠**を設置。これまでに約200頭を捕獲した。

イノシシと車両との衝突事故もあり、今後は人的被害を防ぐためにもイノシシ捕獲を強化していく。農作物被害防止策としては宇城市やJAの補助金を活用して**電柵、メッシュ柵**の設置を進めている。

**(1) 振り返り（ビジョン策定と取り組みの総括）**

【取り組みが継続するためのポイント①  
～ビジョン策定時】

**取り組んでいた「地域ビジョン」を  
ベースに、幅広い年代で  
学び・刺激しあう**

【取り組みが継続するためのポイント②  
～取り組みの総括】

**コミュニケーションを重視し  
若手の要望にこたえつつ  
不公平感のない事業展開を行う**

**(2) 成果****【成果目標】**

- ・中山間地域等直接支払交付金事業の農地を維持する（田60a、樹園地31ha）
- ・担い手の省力化を図る（労働時間5%削減）
- ・新規作物を10a作付けする

**【結果】**

- ・田60a、樹園地31haを維持
- ・共同機械導入の効果をこれから検証する
- ・アボカドを10a作付け。新規作物としての可能性を検証する

**メンバーの声****「自分も頑張るぞ」という気持ちになれた**

事業を使うことで「自分も頑張るぞ」という気持ちになれる。事業を通して農業の発展に貢献できるということは、素晴らしいことだ。とくに若い人たちには、この取り組みを使って地域を盛り上げてほしい。

**(3) 今後に向けて****①新しいことにチャレンジする、人とのつながりを大切にする**

担い手同士が刺激し合い、新しい農業ビジョンにチャレンジすることで、古場地区農業を活性化していく。共同購入した農業機械の運用を通じて、担い手同士のつながりが深まる。

農業経営者同士の情報交換を積極的に行い、農業先進地としての立場を築く。

**②コロナ対策**

ミニトマト栽培にコロナ禍の影響が見られた。さらに省力化と収益力のレベルアップで経営を強化する。